

「釈尊生誕の地ルンビニー園マヤ堂発掘調査および復興事業」報告

大統寺住職 渡邊宗徹合掌

(1) 考古学発掘調査最終報告書発刊と発表会（学術書および経緯報告書）（2005年5月24日：東京にて）



←左から、奈良・塚
本・坂詰
の各先生



発表会に先立ち開催され
た理事会での住職

住職はこの10年程の期間(財)全日本仏教会(東京都港区芝公園)の事業に携わってきておりますが、この数年はお釈迦様の生誕の地ネパール王国ルンビニーのマヤ堂遺跡の発掘調査と復興事業に関わって参りました。担当した考古学者上坂悟氏が急逝したため、その事業を全面的に受け継いでまいりました。この度、懸案事項であった「ルンビニー園マヤ堂遺跡考古学発掘調査最終報告書(学術書)」と事業の経緯報告書が瀧沢大学総長・元学長奈良康明先生、立正大学前学長坂詰秀一先生、東北大学名誉教授塚本啓祥先生の御蔭で発刊することができました。5月24日に東京都新宿区のリーガロイヤルホテル東京で発表会及び報道機関への説明会を開催し、ルンビニーが正しく釈尊生誕の地であることを証明することができました。(9月5日の朝日新聞でも報道)

(2) ネパール政府への公式な贈呈式開催（2005年6月21日：ネパール王国首都カトマンズにて）

住職は日本の代表として(全日本仏教会ルンビニー委員会副委員長を拝命)引き続き、6月20日よりネパール王国に赴き、報告書発刊に関わるレセプションを首都カトマンズのアンナプルナ・ホテルで主宰し、ネパール王国の代表として文化観光民間航空大臣・ルンビニー開発トラスト理事長のラジ・バジャラチャルヤ氏に贈呈致しました。この席には駐ネパール平岡 邁日本特命全権大使、ユネスコ・カトマンズ事務所 菅野 琴所長等も同席され、この調査の意義をと成果を説明して戴きました。

この模様はネパール王国の新聞やテレビで報道されました。これにより20年余に渡る困難な事業に一区切りをつけることが出来ました



(贈呈式)



住職から大臣へ(式典)DOA 次官, 菅野, 平岡, 大臣, LDT, 住職



(現地の新聞の報道記事)



(報告書外観)



(報告書内容の一部、写真と図版)

ネパール王国のギャネンドラ国王にも贈呈するために王宮に赴き、不在の国王に代わり侍従長に報告書を手渡しました。



← 王 宮
王宮内にて→
住職(中央)と侍従長



釈尊生誕地→
ルンビニー園
マヤ堂の前で

